

令和5年第2回評価委員会会議録

開催日時：令和5年10月6日（金）

午後2時00分～午後3時40分

開催場所：旭市役所1階 市民ホール

出席者

《委員》

近藤 俊之 委員長	出	齋藤 康 委員	出	高橋 秀典 委員	欠
木村 哲三 委員	出	山崎 晋一朗 委員	出	江畑 稔樹 委員	出

法人：吉田象二理事長・野村幸博病院長・菅谷敏之史事務局長・葛見浩総務人事課長・松浦豊経
理課長・崎山宏契約課長・合田淳広報患者相談課長・高埜正人経営企画室長・新井孝志施設課長・吉
沢孝美医事課長・岩井淳一特任課長・越川正紀総務人事課長補佐・齊藤健副主査

旭市《事務局》：

柴栄男企画政策課長・加瀬弓子企画政策課副課長・多田勇介主査

会議概要

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議事（※資料の名称は別紙参照）
 - (1) 第2期中期目標期間の終了時の検討について
 - (2) 第3期中期目標（素案）について
4. その他
5. 閉会

配付資料

- 資料1 第2期中期目標期間の終了時の検討に係る意見依頼書
- 資料2 地方独立行政法人法（抜粋）
- 資料3 地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院第2期中期目標期間の終了時に見込まれる
業務実績に係る評価結果
- 資料4 第3期中期目標（素案）及び策定に係る考え方
- 資料5 新旧項目対照表
- 資料6 第3期中期目標（素案）

資料7 「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」の概要

資料8 医師の働き方改革

《会議内容》

○議案1 第2期中期目標期間の終了時の検討について

委員長：中期目標期間終了時の検討について、市の説明をお願いします。

市：前回の評価委員会で、第2期中期目標の期間の終了時に見込まれる評価について、ご意見をいただき、全体的な評価は、B（概ね中期目標どおりに進んでいる）という評価でした。

旭市としては、引き続き、地方独立行政法人の形態で業務を行いたいと考えておりますが、このことにつきまして、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

もし何かご意見等ございましたら、よろしくお願ひいたします。

— 特に意見なし —

委員長：それでは意見等はないようなので、委員会としても「地方独立行政法人の形態で業務を続けることが適当である」と答申したいと思ひます。

○議案2 第3期中期目標（素案）について

委員長：中期目標期の素案について、市の説明をお願いします。

市：資料の内容を説明

委員長：それでは、ご意見、質問等ありましたらお願いします。

江畑委員：8番で新興感染症という名称に変更しているが、新興に限定することが適切なのか。

山崎委員：総務省のガイドライン等を踏まえての名称であるかと思う。新興、再興感染症という表現もするが、新興感染症等としているので、事務局案で差支えないのではないか。

委員長：8番の項目名を新興感染症ではなく、感染症としてはどうか。説明文は、新興感染症等としているのでそのまま差支えない。

斎藤委員：21番の医師の働き方改革の『医師の適正配置』の適正とは何か？
何をもって適正とするのか。どのようなことを求めて、何をもって完成とするかまで考える必要がある。

委員長：21番の医師の働き方改革について、適正配置、最適化という表現は、計画を作成する病院としてはどのように受け止めているのか。

病院長：働き方改革は令和6年度からスタートする取り組みであるので、現時点では細かな計画は行っていない。目標としては大枠を表現していれば良いのではないかと。

木村委員：14番の第三者評価とはどのようなものか。

旭市：この評価委員会も一つではあるが、日本医療評価機構などの外部の評価機関など評価を業務改善に結び付けることを目的とする。

高埜室長：ISO（2種類）の評価も受けている。

木村委員：今までもこの評価は受けてきたけれど、それを継続するということを明記するのか。

市：これまでは第三者評価と明示はしてなかったが、重要な取り組みであるので、その点を明示した。

木村委員：評価委員会は市のHPで明記しているが、その他の取り組みについては公表しているのか。

市：評価委員会は、市の組織になるので市のHPに掲載しているが、その他の取組については、病院が主体となり取組んでいるので、病院のHPに掲載している。

山崎委員：3番の広域基幹型急性期病院という表現は、どこで規定されている用語になるか。

高埜室長：公式な言葉ではないが、旭中央病院を表すのに適した言葉であるため用いた。

山崎委員：確かに文言を見ると中央病院を表す言葉であり、この第3期を象徴する言葉であると思う。

吉田理事長：この「広域」というのは、2次医療圏を超えて患者を受け入れているという
意味合いであり、法律上使われている言葉ではないが、我々医療界の人間に
っては一般的に使用している。

近藤委員：広域基幹型としての活動がこの目標の中の取組として何か見えるものがあるの
か。そのようなものがあってもよいのではないか。市と病院とで協議をお願い
したい。

山崎委員：地域医療構想において必要とされる医療機能への最適化とあるが、この点につ
いての市と病院それぞれの認識について教えてほしい。

市：リハビリなど他の病院でも担っていただければ、必要とされる高度急性期医療等が更
に充実することができると認識している。

菅谷局長：急性期を終えた後の受け皿となる病院がないのが現状で、それらを見直そうと
している。当地域で不足している回復期機能等の病床を設置した、または設置
を検討している地域の病院とどのように連携が可能か検討を進め、その内容を
書き込めるか考えている。

山崎委員：13番 医療DX推進と患者サービス（利便性）の向上の（利便性）の意図は
何か。

市：DXは業務全般にわたるものであるが、ここは、患者サービスの向上の一つとしての
DXであり、患者サービスに寄与するためのDXの推進という意味になる。また、
（利便性）は、本来のサービスに加えて（利便性）という意味である。

木村委員：項目名が適当ではないのではないかと。説明の内容はそのままよい。
顧客満足度を高めるため、質の向上、効率性を分けた方がよいのではないかと。
この項目名では、効率が主となっている。

江畑委員：医療の質と利便性とDXと3つの要素があるものを2つで括ってしまってい
る。一番大事なものは、医療の質である。質から順番に並べていくことが必要で
はないか。

委員長：患者サービスの向上でQI分析、第三者評価とDXとがある。これらを再考し表
現を検討してもらいたい。

山崎委員：16の予防医療については、単独で記載し、格が上がった印象であるが、病院としては具体的な取り組みは考えられるのか。

25については、コンプライアンスを特出しした意図は何かあるのか。

市：市としては、小項目では格上げしたが、意図としては引き続き事業を継続してもらおうというものである。

江畑委員：予防医療は非常に重要である。これはワクチン接種などだけでなく、疾病の進行を予防するという仕事が増えている。予防には副作用もある場合があるので、その点も説明しながら業務を行う。この格上げは、社会の流れに合っている。

高埜室長：市民の健康講座などを行う。生涯活躍のまち、CCDプロジェクトなどに健康、糖尿病予防事業においても取り組んでいる。

木村委員：血液検査でのがんリスクのチェックなどを行うなどの取組はできないか。

委員長：これは健診になると思うが、現在、病院では健診ほどの程度対応しているのか。又、今後どうする考えか。

高埜室長：健診は健診センターで実施しているが、外来患者数が大変多く、全国トップクラスであるため健診の件数を増やすことは難しい。現状維持を目指していく。

委員長：山崎委員から指摘のあった「ガバナンスの強化」について、第2期では「ガバナンスとコンプライアンス」としていたが、コンプライアンスを別立ての項目としたのはどういった理由があるのか。

市：今まではガバナンスとコンプライアンスの2本立てとしていたが、ガバナンスを1つの柱とし、その下にコンプライアンス・内部統制・情報管理の支柱とした。

木村委員：ガバナンスは、コンプライアンスと内部統制の2本立てになるかと思う。情報管理は内部統制の一つと考えることができる。項目としてはこれで問題ない。

山崎委員：組織マネジメントの充実が2期ではあったものが、3期ではなくなっている。この点をどこかに盛り込めたら良いかと思う。

山崎委員：施設設備の最適化の検討としたのは、どのような意図か。

市：2期では、投資という表現を最適化としたのは、現存する資産の活用も含めて検討をお願いしますという意図である。

菅谷局長：コロナにより患者の動向も変化が見られるので、その変化に対応した施設整備の検討も必要であるということも考えている。

委員長：その他、質問意見等あるか。

— 意見等なし —

委員長：それでは、以上で中期標の素案に対する審議を終了します。
次第の4その他になります。事務局からお願いします。

事務局：次回の会議日程等について説明

委員長：以上をもって本日の会議を終了します。
ありがとうございました。